

弟子のための三位一体 ヨハネ16:12~15

私たちキリスト教では、唯一の神を信じています。ところがこの唯一の神はイスラムやユダヤ教の唯一の神とはちょっと違います。唯一の神ですが、位格(ペルソナ)が三つの神、つまり三位一体の神であるからです。だからといって、様々な神様がいるという多神論(ポリセイズム)の概念ではありません。三位という言葉の後に、一体がついていることから、多神論の概念ではないということが分かります。だから、ルターは、三位一体の教義は、三つの神ではなく、一つの神を描写することだと言いました。ルターだけでなく、ルターの時代の前の教会でも、一つは三つであり、三つは一つだと教えてきました。伝統的に教会は三位一体の神様を受け入れ、信じているということです。

ところが、私たちが読んでいる聖書では、この三位一体という単語はありません。教会は三位一体の神様を信じ、教えて来ました。これによって、様々な争いもありました。それにもかかわらず、教会の中心となる聖書に、三位一体という言葉がないのは、不思議なことです。しかし、聖書には三位一体という単語が書かれていないだけで、三位の神様についての言葉は聖書全般にわたって書かれています。そして三位一体という言葉が生まれるようになった源は福音書、つまりイエス様の言葉からでした。イエス様はこの三つの位格の神様、父と御子とみ霊について弟子たちに教えられました。また、弟子たちも自分の弟子たちにこの三位の神様について教えました。このような過程を通して、キリスト教の神観、三位一体の神についての教えが立てられたのです。今日の福音書は、この三位一体の神についての言葉です。この言葉を通して、私たちはイエス様が三位の神様について教えられた理由が分かるようになります。今日の福音書12節の言葉です。「言っておきたいことは、まだたくさんあるが、今、あなたがたには理解できない。」

今日の福音書は「あなたがたには理解できない」という言葉から始まります。私たちが読んでいる新共同訳聖書で「理解する」と解釈されたこの言葉は、もともと「バスタゾー(βαστάζω)」という言葉で「荷物を追う、運び去る」という意味です。英語聖書、NIVやKJVでは「bear」、耐えると翻訳されています。だから「理解できない」という解釈も良いのですが、「コントロールできない、耐えられない」という解釈が、当時の状況にはもっと合う解釈だと思います。口語訳や新改訳聖書で「耐えられない」と翻訳されているのも、この理由であるのだと思います。イエス様は弟子たちに、「言っておきたいことは、まだたくさんあるが、今、あなたがたには耐えられない」と言われました。弟子たちが耐えることが出来ないこと。これはイエス様と弟子たちが負わなければならない十字架です。弟子たちはイエス様の死を受け入れなければならないし、イエス様に従うことによって受ける苦難に耐えなければなりません。私たちも同じでしょう。私たちも弟子として耐えなければならないことが結構あると思います。そして、このようなことは弟子たち自身が耐えるには難しいことです。ですから、イエス様はこれらのことを耐えることができるように聖霊が来られると言われます。13節の言葉です。「しかし、その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。その方は、自分から語るのではなく、聞いたことを語り、また、これから起こることをあなたがたに告げるからである。」

この言葉によると、真理の霊が来られる理由は、弟子たちを導いて真理をことごとく悟らせるためです。つまり、真理の霊は弟子たちのためにこの世に来られるのです。弟子たちに何が真理なのか、何を求めて生きなければならないのかを教えてください。聖霊がこの世に来られたのです。そして聖霊は、混沌とした世の中で、何が正しいか、何が正しくないかを判断できない弟子たちに、イエス様の御心が何なのかを教えてください。しかし、聖霊がイエス様の御心を教えられるとしても、弟子たちはこのイエス様の

御心を耐えることはできないでしょう。イエス様の御心は、世の教えと全く違って、自分たちの考え方にも反することだからです。これは当時の弟子たちだけでなく、今、私たちにとっても同じでしょう。聖書を読んで感動と恵みを受けていますが、私たちはイエス様の教えに従って生きていません。「この世に生きているから仕方ない!」、「自分は平凡な人だからできない!」これが私たちの言い訳です。しかし、聖霊はこのような私たちもイエス様の御心に従うことができるように、私たちがその御心を理解し、耐えることができるように導いてくださるのです。イエス様の弟子たちのことを考えてみてください。聖霊に導かれた彼らは何をしたかを思い出してください。ユダヤ人たちを恐れ、隠れていた弟子たちが聖霊によって外に出てきたように、聖霊は私たちも導いてくださるでしょう。これが真理の霊が弟子たちの所に、私たちの所に来られた理由です。

そしてこれらすべてのことは、イエス様とつながっています。イエス様は、「その方は、自分から語るのではなく、聞いたことを語る」と言われました。これは、聖霊が行うことがイエス様のことと同じであることを意味します。イエス様がこの世で神様の働きをなさったように、聖霊はイエス様の働きを続けてなさるのです。今日の福音書14節には、このように書かれています。「その方はわたしに栄光を与える。わたしのものを受けて、あなたがたに告げるからである。」聖霊はイエス様に栄光を与えるのです。イエス様がなさったことを聖霊が続いてなさることによって、イエス様はこの世のすべての弟子たちから栄光を受けられるからです。ローマの信徒への手紙10章13節で使徒パウロは、「主の名を呼び求める者はだれでも救われる」と語っています。聖霊はこれをすべての弟子たちに告げられるのです。イエス様が成し遂げられた救い、イエス様の栄光が続いて世の中に伝えられるようにお働きになるのです。

イエス様は15節で「父が持つておられるものはすべて、わたしのものである」と言われます。これは、イエス様の救いが神様の御心であるという言葉です。私たちに与えられた救いは、イエス様が独断的になさったのではなく、神様の御心によって成し遂げられたことだということです。そして聖霊は、神様の御心によって成し遂げられた救いを、すべての弟子たちに告げられます。すべての弟子たちがこの救いの中で喜ぶことができるように、自分の救いについて疑わないようにしてくださいます。私たちの救いは、三位一体の神様が成し遂げられた救いです。この救いが万物を創造された神様の御心なので、そして聖霊が導かれるので、私たちは喜びを持ってこの救いを受け入れることができ、イエス様に従うことができます。今日の福音書の次の節である16節で、イエス様は弟子たちにこのようにおっしゃいます。「しばらくすると、あなたがたはもうわたしを見なくなるが、またしばらくすると、わたしを見るようになる。」ある意味、言葉遊びのようなこの言葉は、三位一体の神様をよく示してくださる言葉だと思います。弟子たちはイエス様を見なくなります。聖霊を通してイエス様を見るようになるからです。私たちもイエス様を見ることはできません。しかし、私たちの中におられる聖霊は、私たちを導いてイエス様に従うことができるように、イエス様を見ることができるようにしてくださいます。

愛する皆様。神様は、私たちの救いのために、すべてのことを超えて、イエスという御名で、この世に来られました。そして、その神様は、聖霊という御名で、今、私たちの中におられ、私たちを導いてくださいます。このことを信じている私たちは、三位一体の神様の中で、救いの確信を持って平安を享受することができます。これが三位一体の神様が私たちに告げていることです。そして、イエス様は私たちにこれを教えられるために、三位一体の神様について言われたのです。この言葉が三位一体主日に教会に集まった皆様に救いの確信と平安を与えますように。主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりがいつも皆様と共にありますように、主の御名によって祈ります。アーメン